

平成29年度 テーマ別環境学習講座（第2回） 実施報告

「都会の中の生物多様性に触れよう！」

平成29年9月

公益財団法人 東京都環境公社

平成29年度 テーマ別環境学習講座（第1回） 実施報告

「都会の中の生物多様性に触れよう！」

□実施日 平成29年9月26日（火）

□受講者数 定員50名 受講申込者 96名 当日出席者 60名

□実施内容

○挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、資料確認、全体スケジュール等
- ・東京都環境局総務部環境政策課環境政策調整担当より開講挨拶及び本講座の目的等について

○講義 9時35分～12時00分

【基調講義】

◆都会の中の生きものたちを探してみよう！

（講師）プロ・ナチュラリスト 佐々木 洋 氏

（講義内容概略）

- ・都会に見る動物たちの動き
夜鳴きゼミ現象（都会は明るくなった）
街に出てくるタヌキ（開発後、森から街へ）
23区内でコウモリの飛ばない空なし（ヒートアイランド現象や地球温暖化の影響等によって冬眠をしなくなってきた）
飼いうさぎの増加⇔野うさぎ（耳が長い・後ろ足が長い・人を見ると逃げる）
- ・餌の視点で見た植物の特徴
鳥をターゲット：色彩カラフル、派手
哺乳類をターゲット：においがあるもの（哺乳類は鳥と比べて目が良くない）
- ・生きものたちの国産化
西洋タンポポ（札幌農学校で食用に持ち込まれた）、シロツメクサ、西洋ミツバチ、コオロギ（中国）、インコ（インド・スリランカ）など
- ・外来種と在来種
従来の緑化は外来種や園芸種が中心。いちょう（外来種）、ソメイヨシノ（外来・混合） など





◆先進事例①「大手町の森」の取組

（講師）東京建物株式会社 都市開発事業部 若林 典生 氏

大成建設株式会社 環境本部 サステナブル・ソリューション部 北脇 優子 氏

（講義内容概略）

- 都市整備への貢献
地上歩行者空間ネットワークの再整備、地下歩行者空間ネットワークの再整備、国際交流拠点の構築、環境に配慮したまちづくり
- 検討体制の構築
デザイン上の課題の検討、生態・生育上の課題の検討
- 都市環境への貢献
生態ネットワークの形成、ヒートアイランド現象の緩和、水の循環利用、地下空間の改善
- プレフォレストという手法の導入
持続可能な維持管理の方針策定、人口地盤上における育成方法の検証、計画内容の再検証
- 竣工後のまちの声
最先端、自然の癒し、明るくなった、皇居とのつながり、アクセスが改善
- 分析：エコロジカルプランニング
縄文時代～安土桃山時代～江戸時代の海岸線の状況、地形特性の把握、植生区分の把握、飛来する鳥の予測など
- 自然樹林調査による解析
自然の森をつくる3つの指針 「疎密」・「異齢」・「混交」
林床設計指針 「自然の林床」・「安定した生育」・「希少な山野草」
- 生物調査の実施
鳥類・昆虫類・植物類を含めた森の経時変化、森の将来予測 など



◆先進事例②「おおはし里の杜」の取組

（講師）首都高速道路株式会社 東京西局 調査環境課 課長 中村 好伸 氏

（講義内容概略）

- ・首都高及び中央環状線・大橋ジャンクションの概要
70mの高低差と道路の接続をループで解消し、コンパクト化
環境や景観に配慮（全体を覆蓋化）、周辺への圧迫感を減らすため、擬似窓とスリットを設置
ジャンクション内側に換気所を設置、SPM除去装置や低濃度脱硝装置を完備
- ・大橋ジャンクションにおける生物多様性に配慮した取組（おおはし里の杜）
地球温暖化やヒートアイランド対策、生物多様性に寄与する3つの緑の形成 ～自然再生の緑、公園の緑、街並みの緑～
周辺の緑化と連携したエコロジカル・ネットワークの形成（代々木公園、駒場公園や山手通りの緑、目黒川の自然などの緑との連携）
JHEP 認証（企業等の取組について、生物多様性への貢献度や影響度を事業の前後で比較し、定量評価するもの）において最高ランク AAA を取得
- ・首都高の環境保全の取組
山手通りの緑化、大師ジャンクション、西新宿換気所の壁面緑化等の周辺環境や維持管理を考慮した緑化の推進
見沼たんぼ地区首都高ビオトープにおける地域と連携した取組、自然体験学習の実施 など



◆東京の生物多様性の取組

（講師）東京都環境局 自然環境部 計画課 高倉 博史

（講義内容概略）

- ・従来の緑化施策
開発による緑の減少、公害問題等に対応するための緑対策が急務の時代
こうした中で緑化に使われてきた樹木は、早く大きくなる、排気ガスなどに強い、管理が楽、見栄えがいいなど、外来種・園芸種が中心
- ・国内外での生物多様性への関心の高まり
生物多様性条約発効（1993年）、東京の保護上重要な動植物種（レッドリスト）（1998年）、生物多様性条約第10回締約国会議（2010年）
- ・都の生物多様性の取組
「緑施策の新展開」（2012年）
都の生物多様性地域戦略としての位置づけ、在来種・希少種の保全、生物多様性の普及啓発などの推進
「植栽時における在来種・希少種選定ガイドライン」（2014年）
生物多様性の回復に貢献する点から、選定することが望ましい植物の考え方を整理
在来種・希少種登録制度「江戸のみどり登録緑地」（2017年）
一定の要件を満たす在来種・希少種を実践している緑地を都が登録、公表し、その意義等を広く都民に発信⇒生きものに配慮した緑化の普及拡大・東京の生物多様性の保全に貢献



○先進事例の視察 13時30分～16時30分
午前中の講義を参考としながら、現場視察を実施

◆事例①「大手町の森」

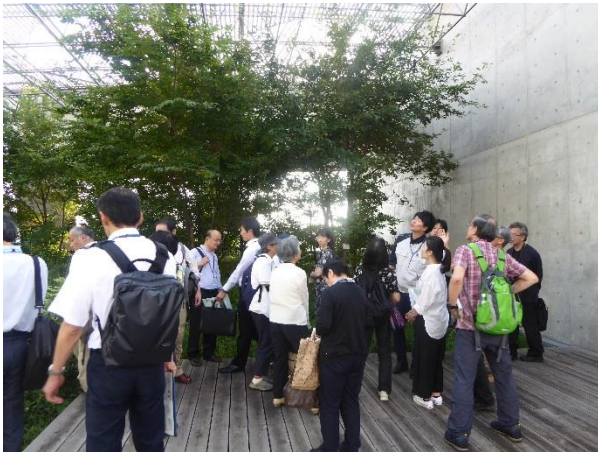
- ・都会の真ん中にある3,600㎡もの緑を体感
- ・「疎密」、「異齡」、「混交」の様子を観察



◆事例②「おおはし里の杜」

- ・公園の緑（目黒天空庭園）、街並みの緑（広場や壁面緑化）、自然再生の緑（斜面林、草地、水田、小川の流れ・池）の生物等を観察





今回は、都会の中の生きものに関する面白い特徴を紹介していただく基調講義に始まり、生物多様性に配慮したまちづくりの先進事例に関する講演と現場視察といった盛り沢山の内容でした。

都内でも着実に進みつつある生物多様性に配慮した取組に関心を持っていただく機会となれば幸いです。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。